

# 東京医療学院大学 就職先等アンケート 2025

本学の卒業生の特性と必要とされる人材について把握し、今後の教育に反映することを目的に、本学の卒業生の就職先等に対して、(1)必要とする人材、(2)本学卒業生の印象、(3)本学ディプロマ・ポリシーの就職先での反映などに関して、2025年9月に調査を行った。

## 1. 社会に出て活躍するために必要だと考える能力要素

社会に出て活躍するために必要だと考える能力要素（以下、必要能力）として、「人柄（明るさ・素直さ等）」が83.0%と最も多く挙げられた。これは前回調査（62.1%）と比較し大きく割合を伸ばしている。次いで「コミュニケーション力」が72.3%（前回73.6%）で、この二つの項目が他の能力要素を大きく引き離す結果となった。さらに「積極性・チャレンジ精神」が42.6%（前回31.4%）が続き、社会人基礎力（29.8%）やチームワーク力（25.5%）を上回る結果となった。これらの結果より、臨床現場は専門的な知識や技術以上に、対人関係能力や社会人としての基本的な立ち振る舞い（人間力）を重要視しているものと推察される。特に「人柄」が前回調査より大幅に増加したことから、単なる技術力ではない、人間性の基礎が現場で最も求められていると認識される。

本学の建学の精神は「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」であり、教育目標において「コミュニケーション能力に優れた豊かな教養と高い倫理性を備え、人に優しく、保健医療を通して社会に貢献できる人材の育成」を掲げており、今回のアンケート結果と合致するものである。改めてコミュニケーション力を含めた人間力の人材育成が臨床現場、あるいは社会も求めているものと認識した。

## 2. 本学卒業生が既に身に付けていると思う能力

卒業生が既に身に付けている能力（以下、卒業生能力）として、「人柄（明るさ・素直さ等）」が80.0%と最も高く挙げられた。次いで「コミュニケーション力」が48.6%、「粘り強さ」が31.4%の順であった。その他の項目は30%未満であった。前項の必要能力との比較では、最重要項目である「人柄」は必要能力（83.0%）とほぼ同水準（-3.0ポイント差）で評価されており、前回調査（卒業生能力の方が10%程度高い）と比較してギャップは縮小したものの、高水準を維持している。また、「チームワーク力」も必要能力（25.5%）とほぼ同水準（-2.6ポイント差）であった。しかしながら、必要能力として上位に挙がっていた「コミュニケーション力」は必要能力（72.3%）に対し23.7ポイント低い48.6%にとどまり、前回（15%ほど低い）よりもギャップが拡大している。同様に、「積極性・チャレンジ精神」も必要能力（42.6%）に対し22.6ポイント低い20.0%と、依然として低い結果であった。

## 3. 貴院・貴施設での就職希望者（新卒）に必要な能力

新卒者に必要な能力として、「人柄（明るさ・素直さ等）」が89.4%と最も多く挙げられた。これは前回調査（72.3%）と比較し17.1ポイント大きく伸ばした結果である。次いで「コミュニケーション力」が74.5%（前回75.0%）で、この二つの項目が圧倒的に高い割合を占めた。さらに、「積極性・チャレンジ精神」が42.6%（前回43.0%）、「社会人基礎力」が34.0%（前回47.8%）が続き、これら4項目が特に高い必要性を示す結果となった。これらの項目は、前々項で示した就職先が求める能力要素（必要能力）とほぼ同じ傾向にあり、臨床現場においては、専門性を発揮するための社会性や対人援助職として備えておくべき能力が新卒者にも強く求められていることが再認識された。

#### 4. 社会人として必要なことや学生時代に身に付けてほしい能力・経験しておいてほしいこと (自由記載)

##### 1) 礼節/マナー/報告・連絡・相談など社会人としての行動(14)

- 報告・連絡・相談ができる。/いわゆる報連相/報告・連絡・相談/報告・連絡・相談 学生や新卒が思っているより濃密にハウレンソウできることが望ましいと思います。/わからないことが聞ける/報告ができる。不明点があったら確認ができる。(6)
- 療法士における技術的なことは入職後いくらかでも学べると思うので、社会人としてのマナーや一般常識はある程度備わっているのが望ましいと考えます。どの業界でも敬語や電話対応などは必須かと思えます。/時間が守れる。ルールが守れる。/社会人としてのマナーを身につけておいてほしいです。/期日を守る(4)
- 挨拶ができる。(3)
- 体調管理(1)

##### 2) 働くことへの態度・姿勢・倫理観(16)

- 専門だけでなくリベラルアーツに関する知識も身につけておいてほしい/論理的思考力/自己研鑽の大切さは知っておいてほしいと感じています。業務時間内ですべての教育を行うことは難しいため。/学びの大事さ。/学習する習慣/問題をそのままにせず、対処を考え挑戦する思考(6)
- 謙虚さや素直さ/素直さ/素直さ誠実さ/まずはやってみようと思う素直さ。/諦めない、真面目、協調性(5)
- 思いやり(その後に成長できるための力)/人を大切に思う気持ち。/倫理観/寄り添う心をもつことが重要になると思えます。患者様だけでなく、支えているご家族様などにも思いを寄せられるセラピストを目指してほしいです。/大学生から医療従事者になる覚悟(心構え)(5)

##### 3) コミュニケーション(6)

- 人の話を聞ける。/コミュニケーション能力や協調性など、周囲のスタッフと共に働くうえで必要となる能力があると良いと考えます。/礼節・コミュニケーション能力。/多職種連携のためのコミュニケーション/接遇,コミュニケーション能力/人と接する職業ですから、挨拶や目を見て話すなどのコミュニケーション力は身につけておくとうまいかと思えます

##### 4) 経験(5)

- 医療職・リハ職として、患者様・対象者と関わる能力・経験/ボランティア等の社会活動/他者への振る舞い(アルバイト含む)における失敗を成功に繋げる経験/多くの経験/勉強ではない社会体験を積み重ねて視野を広げてほしい/在学中に難病家族会などの見学など声を聴く機会があるといいかと思えます。

#### 5. 東京医療学院大学卒業生の印象

既卒生印象の上位3項目は、前回同様に「誠実である」(平均3.58、前回比+0.03)、「仕事に対する熱意・意欲がある」(平均3.42、前回比+0.07)、「責任感がある」(平均3.33、前回比+0.01)であった(評価スケールは4:当てはまる~1:当てはまらない)。これら3項目は、引き続き高い水準を維持している。次いで「マナーが身についている」(平均3.31)、「規律性・倫理観がある」(平均3.25)、「協調性・チームで仕事をする能力がある」(平均3.19)、「コミュニケーション能力がある」(平均3.08)、

「ストレスコントロール能力がある」(平均 3.00)の項目が平均 3.0 以上であった。一方、下位 3 項目は「リーダーシップがある」(平均 2.47)、「創造性・企画力がある」(平均 2.56)、「表現力・プレゼンテーション能力がある」(平均 2.56)であり、特に「リーダーシップ」は平均 2.47 と、最も低い評価となった。

## 6. 東京医療学院大学におけるディプロマ・ポリシー(以下、DP)の卒業生の仕事への反映、及び本学教育への満足度

DP1：人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

DP2：人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

DP3：多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

DP4：地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

DP5：専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

DP6：専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

DPの仕事への反映度については、全項目が前回調査から向上した。中でも DP2(人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる)が平均 3.54 と最も高く評価された。次いで DP1(人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる)が平均 3.40 であった。これらの項目は前回調査(DP2 が最も高い 3.36)と比較しても高い水準を維持しており、本学の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」が色濃く反映できている喜ばしい結果である。一方、DP4(地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる)が平均 2.79 と最も低く、前回調査でも下位であった DP3(多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる)や DP6(専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる)も平均 3.14、3.00 と依然として他項目に比べて低い水準であった。

本学の教育満足度については、平均 3.20(前回 3.22)であり、前回調査から 0.02 ポイント低下したものの、全体としては平均 3.0 を上回る結果となった。

## 7. 東京医療学院大学の教育に関しましての意見・要望など(自由記載)。

- 社会に出てから学んでいく事が多いかと思しますので専門職としてだけではなく、社会人としての教育も引き継いで参りたいと思います。
- 学生さんは個人差が大きく、当施設においてもしっかりと卒後教育ができるように努めていきたいと思ます。
- 個人差は大きく感じますが、概ね頑張ってくれている方が多くいます。臨床においては広い意味での学びを続ける必要があることを知り、興味関心を持ち続けてもらえると助かります。
- 卒業生が多数、就職をして頂いております。当院での定着率は非常に高く、臨床や組織を積極的に牽引をして頂いております。

以上